

学金連携システム研究会

～ 目的とその活動 ～

産学連携学会学金連携システム研究会 小野浩幸¹、石塚悟史²、伊藤正実³、○内島典子⁴、大塩誠⁵、加藤博良^{1,6}、川崎一正⁷、川名優孝⁸、北村寿宏⁹、城野理佳子¹⁰、鞘師守⁴、塩川真澄¹¹、白澤司朗¹²、高澤由美¹、田口幹¹³、丹治惣兵衛¹⁴、野瀬真治^{15,16}、藤原貴典¹⁵、森川茂弘¹⁷、矢島治夫¹⁸、山村正明¹⁰、渡辺裕^{1,12}(山形大学¹、高知大学²、群馬大学³、北見工業大学⁴、徳島大学⁹、米沢信用金庫⁶、新潟大学⁷、東京海洋大学⁸、鳥根大学⁹、北海道大学¹⁰、芝浦工業大学¹¹、荘内銀行¹²、電気通信大学¹³、福島大学¹⁴、岡山大学¹⁵、トマト銀行¹⁶、秋田大学¹⁷、工学院大学¹⁸、宇都宮大学¹⁹)

目的

地域の産学連携を推進するプレイヤーとして金融機関の存在が注目されている。金融機関の持つマンパワーに基づく企業ネットワークと企業情報は大学に有益であり、大学の持つ知的資産の活用は企業の強化に役立つ。しかし、学金連携は各地で散発的な活動が続いてきたところである。本研究会では、各地の**大学と金融機関との連携活動事例を集約し**、状況の把握及び分析、モデル化ならびに学・金の双方の本体業務にメリットをもたらすための**システム化のあり方の検討**を通じて、**学金連携のより効果的な推進に貢献**することを目的としている。

活動

平成20年9月の発足以後、これまで5回の研究会を開催している。

会員所属地域において取り組まれている大学と金融機関との連携内容に関する情報交換等により、**学金連携の実態の把握**および**類型化**、そして**学金連携システム構築に向けた検討**を行っている。

第1回

日程 平成20年11月18日(火)
会場 東京海洋大学
越中島キャンパス¹⁾
永田町合同庁舎²⁾
参加 15人

・**会員所属大学における学金連携に係る事例発表および意見交換¹⁾**

北海道大学、北見工業大学、山形大学、福島大学、新潟大学、宇都宮大学、工学院大学、芝浦工業大学、東京海洋大学、鳥根大学、岡山大学、高知大学、大分大学(順不同)

・**地域密着型金融の取り組み状況概要説明¹⁾**(金融庁監督局参事官)
・**地方再生戦略概要説明²⁾**(内閣府地域再生事業推進室長内閣審議官)

第2回

日程 平成21年3月17日(火)
会場 東京海洋大学
越中島キャンパス
参加 18人

・全国的な学金連携の進展状況を把握するため、「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」企画に関する意見交換

・事例紹介「**山梨中央銀行が取り組むコーディネータ増員とその取り組みについて**」(山梨中央銀行営業統括部公務法人推進室)

第3回

日程 平成21年9月30日(水)
会場 東京海洋大学
越中島キャンパス
参加 19人

・「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」結果を踏まえた分析、持続的な学金連携システム構築に向けた検討議論

(なお、アンケート調査結果は第7回福井大会にて発表)
・事例紹介「**北洋銀行の産学連携への取り組み**」(北海道大学産学連携本部室長)

第4回

日程 平成21年11月30日(月)
会場 (財)川崎市産業振興会館
参加 12人

・これまでの研究会活動の総括と今後の活動方向の検討議論
・第3回に引き続き、「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」結果を踏まえたさらなる分析、持続的な学金連携システム構築に向けた検討議論

第5回

日程 平成22年4月8日(火)
会場 東京海洋大学
越中島キャンパス
参加 13人

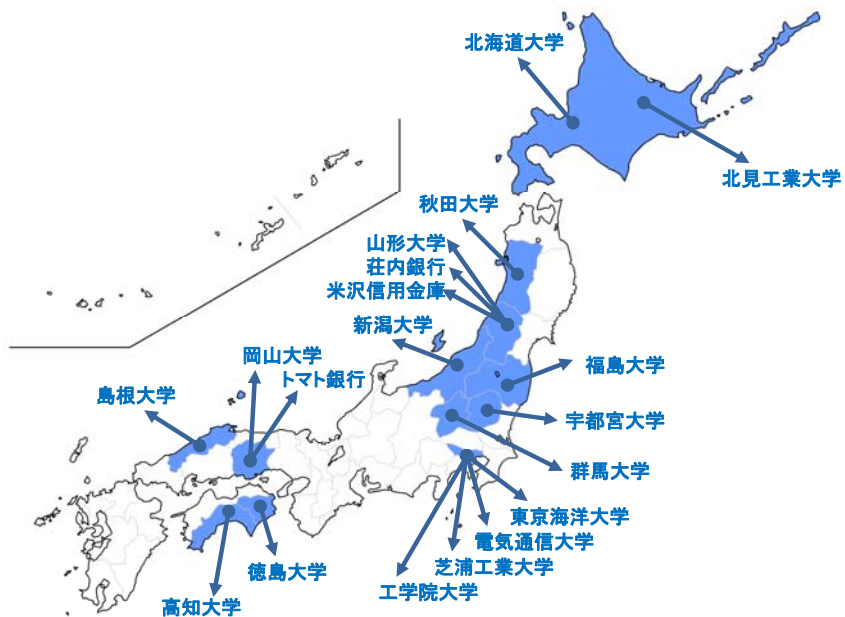
・学金連携をより効果的に推進するため、事例の類型化方針の検討議論
・学金連携の類型化・事例分析のための取り組み事例集の作成、および学金連携システムのモデル構築に向けた具体的な取組みについて検討議論

会員構成

学金連携システム研究会は会員構成22名(19機関)からなり、会員の地域別分布は47都道府県のうち、1都10県1道による構成である。

今後

本研究会会員増大を図る。また、学金連携に関するモデル化・システム化を検討するにあたり、全都道府県にわたる活動状況を把握するために行った、大学および金融機関を対象とする全国台のアンケート調査の結果を基に、より体系的な学金連携の類型化・事例分析を検討する。さらに、**大学と金融機関との連携のモデル化、システム化**に向け、検討を進める。



学金連携システム研究会 地域別会員分布